

いしかわ

まちづくりView

No.24

- 都市ルネッサンス石川・都心軸整備事業 浪漫の風ふくまちづくり
～御影大橋の開通について～…………… 1・2・3
- あのまち、このまち“まちづくりめぐり”
～変わり行く大桑地区～(金沢市)…………… 4
～主要地方道 蛸島港線 昭和橋架替工事完成～(珠洲市)… 5
～輪風のまちづくりフェスティバル～(輪島市)…………… 6
- まちづくりの動き
石川県景観マスタープランの作成について…………… 7
- センターだより…………… 8

財団法人いしかわまちづくりセンター

都市ルネッサンス石川・都心軸整備事業

特集

浪漫の風ふくまちづくり

～御影大橋の開通について～

1. はじめに

台風一過の青空の下、去る8月27日に御影大橋が無事開通いたしました。当日は、県主催の「開通式典」、まちづくり協議会主催の「浪漫の風まつり」、「仮橋→新橋の交通切替え」とイベント目白押しで、燦然と輝く太陽のように熱い一日となりました。



開通前の御影大橋全景▶

2. 開通式典

開通式典では、谷本知事の「橋の完成で交通渋滞の解消、車両と歩行者の安全確保、地域の街づくりに大きく貢献できると確信している」との式辞に始まり、山出金沢市長の挨拶、来賓のご祝辞、祝電披露の後に「テープカット」と「くす玉開披」を行いました。くす玉開披では、地元の長土堀保育園及び中村町保育所のかわいい園児にお手伝いをしていただき、終始和やかな雰囲気でした。



テープカット・くす玉開披

最後に、開通を記念して、中央小学校の鼓笛隊先導で、地元4組の三代夫婦^{さんだいめおと}による渡り初めを行い、式典は終了しました。渡り初めの儀式は、昔から一家に三代の夫婦が顕在することは大変珍しく、おめでたいことから、これにあやかり「三代夫婦のように、橋も永続して欲しい」という願いを込めて行うものです。この渡り初めを一目見たり、参加しようと多くの方々が橋に集まりました。



渡り初め

3. 浪漫の風まつり

開通式典に引き続き、「元車・御影大橋地区まちづくり協

議会」主催の「浪漫の風まつり」が盛大に開催されました。金子まちづくり協議会々長の開催宣言の後に、車道部では兩岸町内対抗の「綱引き」が行われました。最初で最後であろう橋上での綱引きに熱戦が繰り広げられました。



綱引き

「御影大橋ものしりクイズ」では、小学生を対象に御影大橋に関するクイズを出題したのですが、1問目であわや正解者なしというハプニングもありました。その場合は、司会者の機転によりなんとか5問出題することができました。最後まで残った10名の小学生には長原所長より図書券が進呈されました。



クイズ

車道部に特設された「御影ステージ」では、地元ゆかりの人気歌手「若杉しげるショー」や「のど自慢大会」「踊り流し」「太鼓」などが次々と繰り広げられ、炎天下にも関わらず多くの方々に参加いただき、とても盛り上がりました。参加者にとっても一夏のいい思い出になったことでしょう。

上流側に張り出した歩道橋では「御影カフェ」や「フリー

～御影大橋の開通について～

マーケット」が開催されました。医王の山並みを眺めながら橋上で飲む生ビールの味は格別だったに違いありません。



踊り流し



カフェ

また、歩道部の最も広い(W=7.0m)中央部には氷柱が4本置かれ、涼を楽しめる趣向を凝らしました。子供達に大人気で、手で触って喜んでいました。



氷柱

4. 交通切替え

太陽も傾き始めた頃、いよいよメインイベントの「交通切り替え」が行われました。1ヶ月前から準備を始め、警察や道路管理、請負業者との打合せも入念に行い、総勢38名の体制で臨みました。本線(県道)信号が赤になると同時に警察が全ての交通を止め、その間に安全施設を移動させ仮橋を塞いでから、新橋へ交通誘導を開始する段取りでした。ここでのポイントは、100m離れた右岸と左岸の作業を同時に行うことでしたが、なんとか無事に切替えを終えました。

5. 最後に

無事開通の日を迎えることができたのも数多くの関係各位のご協力やご尽力のお陰です。この誌面を借りて深く感謝いたします。今後、御影大橋が金沢を代表する橋となり、また長土堀と中村町両町会のコミュニティの架け橋として、「浪漫の風ふくまちづくり」が末永く続くことを期待します。

また、車道部と上流側歩道部は開通しましたが、現在下流側歩道の完成に向け鋭意工事中です。橋を利用される皆様方にはご迷惑をおかけしますが、平成18年3月の全体完成まで今しばらくご協力をお願いいたします。

□御影大橋設計条件

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| ・道路規格：第4種 第1級 | ・橋 長：20.90+67.60+20.10=108.60m |
| ・設計速度：V=60km/h | ・幅員構成：4.50~7.00m(上流側歩道部) |
| ・設計荷重：B活荷重(25t対応) | +13.00m(車道部4車線) |
| ・橋梁形式：3径間連続測径間付き
単弦ローゼ桁橋 | +4.50m(下流側歩道部)=22.0~24.5m |
| (逆V型吊り材単弦アーチ橋) | ・鋼材重量：約1,220t |

□計画概要

御影大橋は、昭和26年に架設された橋梁で、幾度の補修・補強を繰り返し50年が経過しました。しかし、車道が3車線しかないうえ交通量が3万6千台/日と非常に多く、金沢市内における慢性的な渋滞ポイントとなっていました。

新しい御影大橋は、耐荷力アップや交通渋滞の緩和に加え、都市景観に配慮し、都市のシンボルとなるよう「御影大橋構造・景観検討委員会」等の提言をもとに、犀川の流れや医王山の山並みと美しく調和する丸パイプの単弦アーチ橋としました。

上流側歩道は、犀川や山並みをゆっくり望めるよう余裕のある歩行空間を確保し、歩道舗装には、橋の名前となっている「御影石」を用い、冬期の歩行者の安全性・快適性にも配慮して無散水消雪方式としています。橋梁の色は、アーチ部は旧橋の面影を残す「シルバー」に、橋桁は日本の伝統色「灰桜色」としています。

(石川県県央土木総合事務所 都市施設課)

金沢市

～変わり行く大桑地区～

1. はじめに

大桑地区は金沢の南東部に位置し、涌波台地と野田山に囲まれた緑豊かな地区です。傍には室生犀星ゆかりの清流“犀川”が流れています。現在、組合施行の大桑第三土地区画整理事業と石川県が進めている地域高規格道路金沢外環状道路（山側幹線）の整備により都市基盤の充実を図っています。

2. 大型商業施設順次開店！！

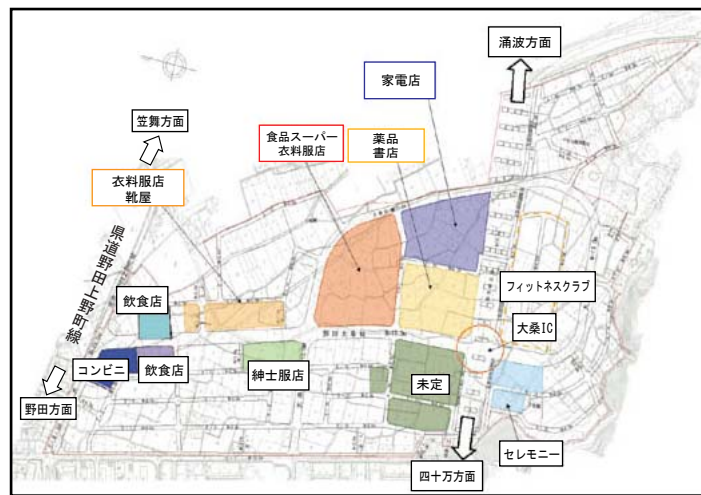
10月27日、拠点・沿道サービス地区に大型商業施設として食品スーパーがオープンしました。また翌日28日には大型家電店がオープンするなど、次々と新しい顔がお目見えしています。

商業施設がオープンして初の週末には駐車場が満車になるほど、多くのお客さんが訪れて、賑わいを見せていました。

今後もスポーツクラブ、衣料服店、薬局などの建設が予定されており、更なる賑わいの創出が期待できます。

また、本地区に進出した家電店の外壁の色は、通常は黄色がメインですが、本地区の場合は緑色と白色をメインとし、景観に考慮した建物になっております。緑に囲まれた地区ですので、こういった配慮がとても重要になっていきます。金沢市内ではもう一店舗が県庁近くにありますが、その外壁も緑色と白色となっているので、金沢市民は緑色と白色が普通と思っているかもしれません。

それだけ金沢市は景観を大切にしていることが



出店計画図

わかります。

3. 来春、山側幹線全線開通！！

このように店舗が密集した理由には、山側幹線の大桑インターチェンジ（仮称）が本地区に出来るということが挙げられます。これにより、涌波台地から直接本地区へアクセスすることが可能になり、また山科方面、白山市へのアクセス性が格段に向上し、とても便利になるからです。

そして、いよいよ石川県のビックプロジェクトである金沢外環状道路の山側幹線が完成しようとしています。すでに涌波台地から野田山に向かって涌波トンネル（仮称）、野田山トンネル（仮称）が貫通するなど、平成18年春の全線開通に向けて、現在、急ピッチで工事をしています。

本路線の開通により、金沢市内はもちろん、近郊の市町の交通の流れが大きく変わることが予想され、現在、問題となっている都心部の交通渋滞の緩和や、各地のアクセス性の向上が期待されます。

4. 最後に

ご紹介したように大桑地区は現在、大規模なインフラ整備により、大きく変わろうとしています。そして、これからも本地区が周辺地区の拠点として大きな役割を果たすこととなり、今後さらに、地元主体の街づくりをどう進めていくかが重要な課題になっています。

◀地区の様子

※野田山トンネルから大桑地区を望む



（石川県土木部都市計画課 区画整理グループ）

～主要地方道 蛸島港線 昭和橋架替工事完成～

1. はじめに

平成17年7月に、主要地方道蛸島港線の昭和橋が完成しました。

主要地方道蛸島港線は、珠洲市の中心市街地と蛸島港や鉢ヶ崎リゾートエリアとを結ぶ、生活、産業、観光を担う道路です。平成14年度の事業着手から4年の歳月を経て、完成となりました。以下に事業の概要を紹介します。

2. 事業の概要

箇所：珠洲市飯田町

構造形式：上部工；3径間単純プレテンション
PC床版橋

下部工；逆T式橋台、壁式橋脚

延長：220m（うち橋梁79m）

幅員：6.0（16.0）m

事業期間：平成14年度～平成17年度



位置図

3. 事業の経緯と効果

主要地方道蛸島港線の二級河川若山川を渡る

整備前



整備後



安心して通行できる昭和橋へ

旧昭和橋は、昭和43年に架設された橋で、歩道が未整備でした。橋梁前後の道路は平成6年度に歩道の拡幅整備がされており、旧橋梁部が交通安全上、支障をきたしていました。

一方、二級河川若山川は、昭和53年より広域基幹河川改修事業に進めており、昭和橋の下流まで拡幅工事が完了していたため、河川事業と連携して、平成18年8月に珠洲市で開催される第14回日本ジャンボリーまでに整備を図るという運びとなりました。

この度の昭和橋完成により、ドライバーはもちろん歩行者にとっても安心して通行ができるようになりました。また、ジャンボリーにはスカウト、見学者も含めると珠洲市の人口の約2倍にあたる1日平均37,000人が珠洲市を訪れるということで、大会期間中の安全で円滑な交通の確保が期待されています。

4. おわりに

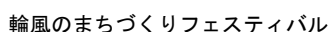
生まれ変わった昭和橋は、珠洲市街地の主要な生活道路として、沿線住民の方の利便性と、安全な生活環境の確保に大きく貢献することとなります。

（石川県土木部道路建設課 橋梁・指導グループ）

本事業は、輪島市の玄関口である旧輪島駅前（ふらっと訪夢）から朝市通りまでを「活性化軸」と位置づけ空洞化の著しい中心市街地の活性化および賑わい再生を図ることを目的として、旧輪島駅から河井中央交差点までのL＝530m区間について平成8年度から事業に着手している。



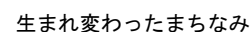
(特定期間である河井中央交差点から輪島高校東交差点までのL=300mの完成に伴い、平成17年11月8日(火)に「輪風のまちづくりフェスティバル」を開催した。



以下に、本事業の特徴を紹介する。

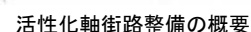
まちづくり協議会では、生き生きとした住みたくなる
まちなみを目指した「輪風・まちづくり協定」を策定し、
このルールに基づき住民自ら輪島らしいまちなみを創造
する。

整備前の様子



沿道住民が輪風・まちづくり協定に基づいて1 mセツ
トバックすることにより、3. 5 mのゆとりある歩行者
空間が確保される。

(都)河井町・横地線(輪島高校東交差点～河井中央交差点間)



(石川県奥能登土木総合事務所道路建設課)

まちづくりの動き

石川県景観マスタープランの作成について

1. はじめに

景観法の制定等をふまえ、交流人口の拡大など地域の活性化につながる景観施策を進めるため、県全域にわたる景観形成の方針を示す「石川県景観マスタープラン」を策定しています。

景観マスタープランは、県や市町が景観法に基づく景観計画を定める際に、指針となります。

2. 景観マスタープランの内容

- 1) 石川県における景観づくりの方針
- 2) 方針実現に向けた施策展開のあり方
 - ① 重点的に景観形成を進める地域の選定
 - ② 県民への意識啓発施策
 - ③ 県・市町、事業者、県民の役割分担

3. 検討委員会の開催

学識経験者などから広く意見を求めるため、10月6日に第1回検討委員会を開催し、基本理念や基本方針など「石川県における景観づくりの方針（案）」について審議を行い、委員の皆様からは全体として適切という意見を頂きました。

4. 今後の予定

第2回検討委員会において、「景観づくりの方針実現に向けた施策展開のあり方」について審議を行い、パブリックコメントを行った後、平成17年度中に景観マスタープランを策定することとしています。

景観の特性と課題

<特性>

多彩な地形、歴史的・文化的な蓄積、湿潤な日本海沿岸の気候が重なりあうことで、石川らしい景観を形成している。

<課題>

- ① 県民・事業者等の景観に対する意識を高めること
- ② 自然景観を守ること
- ③ 歴史・文化的景観を継承すること
- ④ 観光振興の視点から取り組むこと

基本理念

石川県における恵まれた自然環境、歴史的文化遺産などの景観資源を適切に保全・創出し、後世に伝えるとともに、地域の活性化につなげていくための取り組みが必要である。

これまでの取り組み

保 全



多彩な自然資源



重厚な歴史・文化



四季の変化



新たな取り組み

創 出



交流人口の拡大



地域の活性化

基本方針

石川らしい景観づくり

～景観特性に応じた保全・再生・創出～

景観をつくる人づくり

～県民の景観形成に対する意識醸成～

景観をつくる体制づくり

～積極的な景観形成を推進する体制づくり～

役割分担

【県民・事業者の役割】

景観は、県民共有の財産。
県民ひとりひとりが景観形成の主役。

【市町の役割】

それぞれの地域に即したきめ細やかな景観施策や、住民活動を支援する。

【県の役割】

県土全体の景観形成や普及啓発に努め、市町間の広域連携を図る。

「再発見ラリー in 前川」開催！

子どもたちがまちを探索し、前川を体感する「再発見ラリー in 前川」が平成17年9月23日、小松市今江町で開催されました。

河川改修事業を契機に発足した「前川まちなみ再生検討会」が中心となり、前川周辺の文化や歴史、景観を考える活動の一環として企画・実施しました（同検討会と当センターが共催）。

時折、雨が降る中、小松市立今江小学校の5、6年生の元気な子どもたち35名が6つのグループに分かれ、前川とその周辺を陸路と水路で回り、「まちの良い所」と「まちの悪い所」を探し、カメラで撮影しました。



前川から街並みを望む子どもたち

まちなか探索の後、子どもたちが取りまとめたポスターを発表し、「古い建物を残したい」「川をきれいにしたい」「豊かな自然が残ってほしい」などの意見が出されました。同検討会の代表は、「子どもたちの意見をまちづくりに活かして行きたい」としました。

当センターでは、次世代を担う子供たちを対象としたまちづくり活動を支援しています。子どもたちを中心とした活動を計画する地域や団体がありましたら、当センターまでご相談下さい。



ポスター作成に奮闘中！

「みんなで植えまっし2005」

平成17年10月23日に金沢市田上本町土地区画整理事業地内で「みんなで植えまっし2005」が開催されました。本地区は愛称を「朝霧台」とし、現在事業を進めています。住民参加による緑道、公園づくりを通して、地域に親しみを感じるような街づくりが出来るようにと行われている試みは今年で2年目を迎え、地域の親子や地権者など約300名が集まって本地区の傍を流れる浅野川沿いに桜の木30本と公園内には兼六園の松の木など県内の著名な木の2世を30本を植樹しました。子供たちの楽しそうな笑顔を見ていたら、この桜が大きくなる頃には、素敵な街ができるような気がしました。



みんなで植樹！

編／集／後／記

今回は「御影大橋の開通」について特集しました。来年3月にいよいよ完成予定であり、今後が楽しみです。その他にも県内各地のパラエティに富んだまちづくりを紹介できたと思います。

また、当センターでは専門図書の貸出しや専門家の派遣など、まちづくりに関する様々な支援制度もありますので、お気軽にご相談下さい。

編集協力：石川県都市計画課

発行：（財）いしかわまちづくりセンター

TEL 076-225-1905 FAX 076-225-1943

HP://www.pref.ishikawa.jp/machicen/index.htm

発行日：平成17年12月